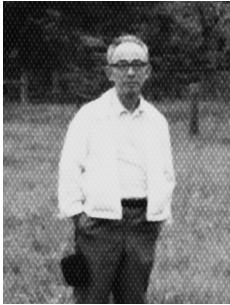


藤岡謙二郎先生と歴史地理学会

南 出 眞 助



藤岡謙二郎先生
(南出眞助会員提供)

藤岡謙二郎先生(1914年4月15日～1985年4月14日)は、京都帝国大学文学部で考古学を、大学院で歴史地理学を専攻された。戦後すぐに立命館大学(1945～49)で教鞭をとられ、続いて京都大学(1949～78)に転任、定年後は奈良大学(1978～85)に勤務され、歴史地理学研究に圧倒的な業績を残されたばかりでなく、多くの研究者や愛好家を育てられた。とりわけ京都大学教養部の一般教養科目「人文地理学Ⅰ」は、卒業生の間でも語り継がれる名物講義の一つであったが、理系も含めた全学部生に向けて、先生はしばしば、現在につながる歴史地理学の意義を熱弁された。専攻生や院生だけを相手に専門的知識を講じるのではなく、地域の変遷過程における一般性・普遍性に論及しようとする姿勢は、先生の研究に対する信念そのものであったように思われる。

先生の初期の名著『先史地域及び都市域の研究—地理学における地域変遷史的研究の立場—』(柳原書店、1955)においても、「現在の地域理解における地域変遷史の立場」が強調されており、学位論文『都市と交通路の歴史地理学的研究—わが国律令時代における地方都市及び交通路の歴史地理学的研究の一試論—』(大明堂、1960)でも、その長い副題が示すように、古代の国府や道路を復原することがいかに現在の地域理解につながるのか、随所で敷衍されている。このよう

な言説が、対象とする時代や地域を超えて、また関西・関東の学派を問わず、さらに考古学や文献史学の分野にまでおよぶ、幅広い共感を呼んだのではないだろうか。

すぐれた記録集である「歴史地理学会文献目録—学会40年の歩み—」(「歴史地理学」第39巻特別号、1997)によれば、先生は1960年度から常任委員(編集)を9年間つとめられ、また終生、評議員の立場にあった。ただ関西在住の歴史地理学者は、人文地理学会など近隣の発表の場にも恵まれていたためか、関東地区を中心に開催される歴史地理学会に出向いての発表は、相対的に少なかったともいえる。先生の最初の発表は、1959年第2回大会のシンポジウムでの「歴史地理学の本質」である。同年発行の「紀要」1号「本質と方法」では、「イギリスの地理教育と歴史地理学研究に対する雑感」と題されている。

つぎに、1962年第5回大会のシンポジウムでは「考古地理学の性格と課題」を担当され、66年第9回大会では「集落の歴史地理学的研究の回顧と反省」を報告されるなど、方法論的・学史的な内容が続く。すでに歴史地理学の第一人者として名高く、学会でも総論的な報告が求められたのであろう。1962年大会の翌年に刊行された「紀要」5号「考古地理学」では、「和泉国府を中心とした古代都市圏の歴史考古地理的概観」と題した論考となっている。当時の先生は、人文地理学会会長(1962～66)をつとめ、また年4回の野外巡検を行う「野外歴史地理学研究会」(通称FHG、1966～)を立ち上げるなど、複数の学会で多忙をきわめておられた。

そして1974・75年度には歴史地理学会会長をつとめられた。1974年の「紀要」16号「交

通の歴史地理」には序文を寄せられ、また第74回例会では「現代都市の系譜的分類とDID」を発表された。1975年度大会は、関西初の試みとして京都大学で行われた。門下生は総動員の様相を呈し、発表数は20を超え、巡検も3コースが設定されるなど、未曾有の盛会となった。会長自らの陣頭指揮もさることながら、本部事務局、常任委員の方のご苦勞もさぞやであったと思われる。

この頃から先生は、まるで定年に向けたラストスパートのような獅子奮迅ぶりを見せられた。近畿都市学会会長（1970～77）、日本



藤岡謙二郎先生（中央）と著者（右）－1973年－
（南出眞助会員提供）

都市学会会長（1977～78）を歴任され、まさに退官記念論文集のタイトル『歴史地理研究と都市研究』が矛盾なく一体化しうることを、身をもって示された。1977年の「紀要」19号「都市の歴史地理」に寄せられた序文でも、「あくまで現代地理学の主流に沿う」趣旨が強調されている。30年変わらぬ主張である。翌78年の「会報」100号記念特集号には「私の夢と学会への期待」と題したエッセイを寄せられ、学問分野の細分化とそれを超える総合的研究の必要性をうたえられた。

奈良大学転任後も、現役のフィールド・ワーカーとしての健在ぶりを見せられた。1980年の第23回大会では「古代の山頂及び山嶺線の歴史地理学的意義—とくに三国山と国見山—」を報告され、翌年の「紀要」23号「山地・高原の歴史地理」に同名の論考として発表された。先生の最期は、1982～85年度会長をつとめた山崎謹哉氏による痛切の紙碑（「歴史地理学」133号）をご参照いただきたい。1985年4月21日に駒澤大学で行われた総会において、故藤岡謙二郎会員を同年4月1日付けで名誉会員として推戴する案が承認された。

（追手門学院大学）